若者定着へ奨学金返還支援制度スタート

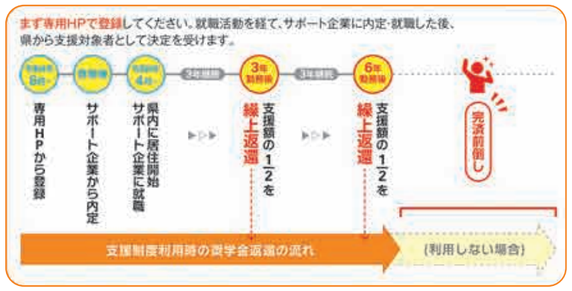
本県出身者の県内就職と定着を図るため県と企業が連携して支援する、「奨学金返還支援制度」の募集が６月から始まりました。

大学や短期大学等の卒業者又は卒業見込み者で、対象となる企業への採用時に 35 歳未満の方を対象に、勤務３年後と６年後に奨学金返還残額の２分の１を上限に本人に代わって繰上げ返還する制度です。

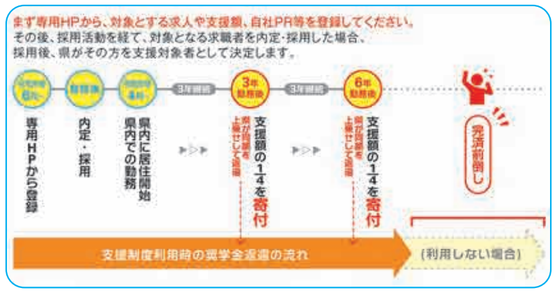
私は 2015 年 12 月７日総務企画委員会で取り上げたほか、新型コロナウイルス感染症の影響についての聞き取り調査を踏まえ、県へ学ぶ意欲のある若者を支援する制度の導入を要望していました。

詳しくはこちらから

登録から支援までの流れ｜令和5年4月採用の場合



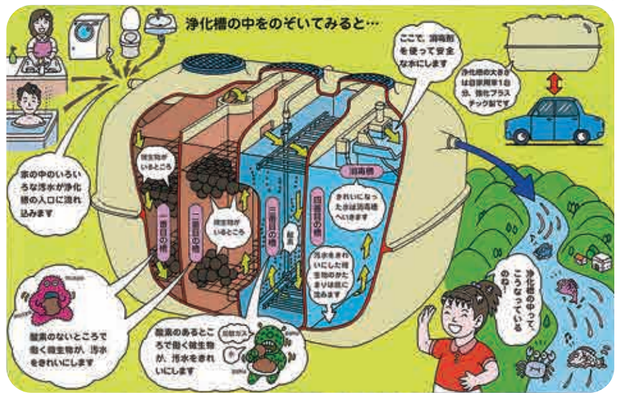
登録から支援までの流れ｜令和5年度採用の場合



公共施設等へ浄化槽の普及を

浄化槽（じょうかそう）って何？

公益財団法人日本環境整備教育センターより提供



本県の汚水処理人口普及率は 81.5％で、下水道 62.3％、合併処理浄化槽等 10.4％です。中山間地の多い本県で下水道整備事業を進めることは財政の大きな負担となります。また公共下水道事業は、居住人口が１ヘクタールあたり 40 人以上でなければ採算が合わないと試算されています。このため人口減少社会においては、災害にも強い合併処理浄化槽への転換を促進すべきです。大規模災害発生時のトイレの確保にも合併処理浄化槽は有効です。

環境厚生委員会で、避難所となる公共施設等へ合併処理浄化槽を整備し、「浄化槽を活用した避難所トイレシステム」の普及を図るよう県に取組を求めました。

発行者・連絡先
青森県議会　公明・健政会
県議会議員　伊吹信一
TEL 017-734-9816 ／ FAX017-722-6148 ／ URL http://www.ibukista.com/
@ibuki_shinichi
@hmw5037e
@IBUKISHINICHI

繰り返してはならない「被災の歴史」

県の三厩藤嶋地区調査に立ち合い課題を指摘

８月３日に本県で初めての線状降水帯が確認され、「顕著な大雨に関する情報」が発表されました。深浦町などで観測史上最多の降水量を記録するなど、県内の広い範囲で豪雨被害が発生しました。９日にも停滞前線の影響で３日を上回る記録的豪雨に見舞われました。

昨年８月の豪雨災害では、大量の樹木や土砂の流失、岩塊崩落で国道 279 号が通行不能になり、風間浦村の下風呂温泉郷が孤立しましたが、今回も同様の被害が県内各所で発生しました。

外ヶ浜町三厩藤嶋地区では大雨で流された国有林の流木が橋で堰き止められてダム化し、浸水被害を惹き起こし、住家を破壊しました。

昭和 43 年８月 21 日にも流木で住家が破壊される「藤島水害」が発生しています。「歴史は繰り返す」と言いますが、抜本的防災対策を講じることで「被災の歴史」を止める必要があります。考えられる再発防止対策を外ヶ浜町から聞き取りし、国有林や治山施設の適切な保全管理、藤嶋川の流れを真っ直ぐに変える改修事業や法面対策を外ヶ浜町と検討するよう９月定例県議会で県に要望しました。

昭和 43 年８月に発生した藤島水害

伊吹 信一プロフィール
会派　公明・健政会所属
環境厚生委員会委員
新幹線・鉄道問題対策特別委員会委員
議会改革検討委員会委員
青森県防災士会相談役　防災士
２級知的財産管理技能士　経営士
温泉観光士　温泉保養士　温泉入浴指導員
http://www.ibukista.com/

いぶきあふれる青い森
IBUKI
http://www.ibukista.com/
県議会ニュースレター
2022 Autumn号

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

青森県議会議員
いぶき信一

りんご被害園地で収穫に向けた作業を調査

被災したつがる市柏のりんご園で被害状況を聞き取り

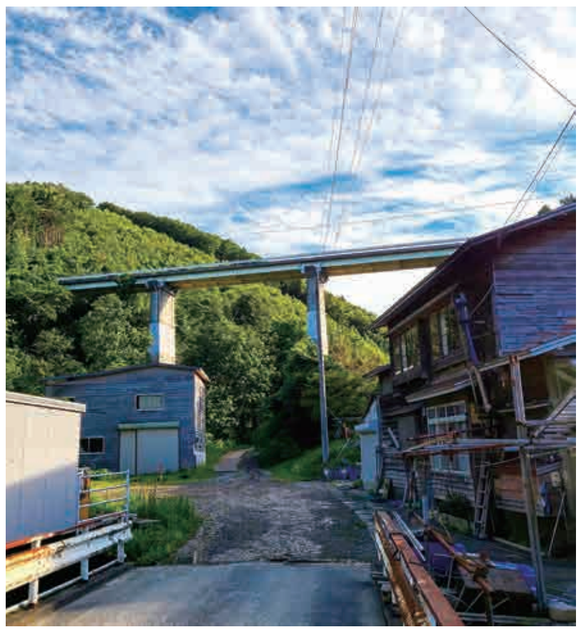
冠水した弘前市三世寺のりんご園を調査

９月定例県議会での質疑を前に弘前市三世寺とつがる市柏のりんご園を訪れ、岩木川流域の冠水したりんご園の被害状況を調査しました。

つがる市柏のりんご園では２メートル以上もの水に３日間冠水したため被害果が７割にも及び、残る３割の出荷を確保できるよう懸命の作業が続いていました。

収入保険に加入しているため保険金の支払いを申請することになるものの、人件費や資材等の支払いを控え、出荷できる収量が決まらないと支払われる保険金が見通せないため、来年の生産への不安な気持ちを語っていました。保険金や共済金の早期支払いのほか、来年への生産意欲にしっかり繋がる支援対策を県や国に働きかけていきます。

三厩停車場竜飛崎線（あじさいロード）の通年通行確保を



８月３日からの豪雨災害により国道 339 号が通行止めとなり、三厩地区では一時孤立する集落が発生しました。激流が落ち着いてからは、国道 339 号と並行する一般県道三厩停車場竜飛崎線（通称あじさいロード）が迂回路としての機能を果たしました。

このため現在は積雪で冬期間通行止めとなっている三厩停車場竜飛崎線を通年通行できるようにして欲しいとの声が、多くの地域住民から私にも寄せられました。外ヶ浜町の山崎結子町長にも確認のうえ、９月定例県議会で通年通行に向け外ヶ浜町と協議検討するよう要望しました。

県土整備部長は答弁で、冬期間の地震津波発生時に三厩地区で生じる課題について、外ヶ浜町と検討することを明らかにしました。

もしもの時に命を繋ぐ道路の通年通行実現に向けて取組んで参ります。

青森県道路課のツイッターをご利用ください

青森県が管理している道路の通行規制情報等をお知らせする、青森県道路課の公式ツイッターをご存知でしょうか。

今冬には青森市を対象に、県管理道路の排雪作業の予定を事前にお知らせする「排雪予定計画の公表」が試行的にスタートします。

雪国暮らしをする県民の安心感に繋げてもらうため、今後は県内に普及させていくことにしています。

県道路課のツイッターで排雪作業情報を告知し、作業予定日と路線名､具体的な区間を県庁ホームページで事前に公表する予定です。

私が行った雪国暮らしについての聞き取り調査のなかで、除排雪情報の提供を求める声が多かったことから、予算特別委員会や６月定例県議会等を通じて、県民への道路情報を提供する制度の導入を県に求めて参りました。皆さんのお役に立つ県道路課の公式アカウント@ aomoriken_douro　を是非登録してご利用ください。

県道路課の公式ツイッターはこちら

自然環境を守るため 風力発電事業の誘導エリア指定を急ぐべき

十和田八甲田の山並み

「惣辺・奥瀬への風車建設に反対する請願」が県議会に提出されました。県は事業計画の立案に関わりがなく、認可する機関でもないため、県に事業の撤回等を求めることは適切ではないとの判断から否決しました。

再生可能エネルギー事業を進めるには、動植物の生態系や景観等、自然環境の破壊に繋がる場所は避けるべきで、十和田八幡平国立公園を含む八甲田山系での大規模風力発電事業に賛同できないことを、私は環境厚生委員会で表明しました。

地域に貢献する地産地消の再生可能エネルギーが地域住民の理解のもと普及できるよう、国は本年４月に「地域脱炭素化促進事業制度」を導入しました。再生可能エネルギー導入事業に伴う自然環境の破壊を抑制させるためにも、市町村の意向を確認したうえで誘導エリアを指定するよう環境厚生委員会で県に要望しました。